

かながわ さとおや

2018 年 10 月発行

発行 神奈川県里親会

藤沢市みその台 1-3

聖園子供の家 気付

<http://kanagawa-satooya.jp>



「ぼくのペット」Tくん(9 歳)

☆もくじ☆

神奈川県里親会会長挨拶、理事紹介	1
特集！ 三日里親	2～4
児童養護施設紹介 「箱根恵明学園」	5
	6
地区だより	7～11
編集後記	11

すべての子どもの幸せと大切な命を守るために



神奈川県里親会会長 小島晴美

皆さま、こんにちは。今年度、神奈川県里親会会長に就任しました小島晴美です。

昨年度までは、湘南・大和里親会の会長を4年間務めさせていただきました。

私は平成18年8月から重度の知的障がいのある男の子を12年間養育しています。障がい児の養育は物理的に時間をとられてしまうので、神奈川県里親会の会長を受けるのは難しいと思うのですが、自分にできる精一杯でやらせていただこうと思います。

今、神奈川県里親会の会長としてできることは、生きにくさを抱えた子どもたちに寄り添うこと、ありのままの子どもを受け入れること。里親が孤立しないように、そして、里親一人の力では養育することが難しい里子を、神奈川県里親会の皆さんで協力して養育していくことだと思います。

2年前の7月、神奈川県ではとても悲しい事件が発生しました。津久井やまゆり園での障がい者殺傷事件です。命の価値は障がいがあってもなくてもみんな同じです。それは、虐待により命を落としてしまう子どもの虐待死も同じです。私たち里親は、かけがえのない子どもの命を守るという大切な役割をもっています。まずはかけがえのない子どもの命を守ること、そして、社会で子どもを育てる仲間を増やすことです。そのために何ができるのかを常に考えて活動していきたいです。社会的養育が必要な子どもたちのために、皆さま、神奈川県里親会へのご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

理事紹介

よろしくお願いいたします!!



会長 小島晴美



副会長 岡清子



副会長 栗原雅代



事務局長 大川哲司



高山慶子

稲川礼子

西川博之

長主直子

守屋真由美

本多一重

西本真弓

山田静

野中麗子



施設の子どもたちのために～三日里親制度～

神奈川県中央児童相談所 虐待対策支援課 後藤友美

「施設か里親か」。社会的養護を考えるとよく聞かれる言葉です。国を挙げて養子縁組や里親・ファミリーホームを推進する方向になっていますが、今は神奈川県でも圧倒的に施設にいる子どもの方が多い状況です。

そんな中、施設に入所している家族の面会や外出がない子どもたちを中心に、「家庭的雰囲気を経験する」ための制度が「三日里親制度」（自治体によって、フレンドホーム、ふるさと里親、季節里親等、いろいろな呼び方があります）です。

三日里親制度を利用する理由は、子どもによって「健全な家庭のモデル」を経験するためにとか、施設退所後の自立に向けた家庭体験をするためになど、さまざまです。

私が横須賀で福祉司をしていた頃、児童養護施設と障害児施設に分かれて入所していた姉妹を、三日里親制度を使ってきょうだい交流をはかっていただいていたことがありました。子どもがわがままを言うこともあり、里親さんは苦勞をされていましたが、夏休みや年末年始には、遠い施設までお迎えに行ってお下さっていました。私はというと、里親さんのお宅に来る日を聞きつけるとそそくさとお宅にお邪魔して、子どもたちが里親宅でのんびりとくつろいでいる姿をみて「ありがたいなあ」と感じていました。その頃はまだ若くて（！）新米だったので、里親さんの大変さやご苦勞をよく分かっておらず、今となってはただただ感謝するのみです。

神奈川県では平成29年度、77人の子ども（里親は61組）が延べ1200日あまり三日里親制度を利用しました。この数は多いと感じられるでしょうか、それとも少ないでしょうか？ 施設で長く生活する子どもたちにとって、三日里親制度はとても大切な制度です。一人でも多くの子どもにより出会いがあって、将来の糧になる経験が得られるよう、私たちも努力しなければと思っています。今後とも協力お願いいたします。

三日里親（短期里親）の方々へ

心泉学園 里親支援専門相談員 赤尾さゆり

児童養護施設で、私が働き始めた頃のエピソードです。男子寮でお正月に外泊できない小学生はひとりだけでした。みんなで遊んでいる中から、子どもがひとり減り、ふたり減りして行くうちに、とうとう最後にひとり残った時に、小学生部屋で「寂しい」と泣きながら年を越したことを思い出します。その後、その子どもには児童相談所から里親さんとの交流をお願いして定期的な交流を続け、卒園した後もずっと気にかけて下さる大切な存在になっていただきました。施設から退職する職員の中で、三日里親（短期里親）として交流して下さる里親さんとなり、施設の子どもたちにとっては、一番長く関わってくれる大人になるということもあります。子どもたちは里親さんとの交流を楽しみにしていて、『自分だけに会いに来てくれる人』との特別な時間を、とても大切にしています。里親さん宅での家庭体験を通して、中には、心理面接で今まで見られなかった家族像が、おままごとに現れる等、良い変化が見られた子どももいます。里親さん宅より帰園した子どもに、他の子どもたちが集まって来て、持ち物のにおいをかいで「おうちのにおいがする！ 良いなあ〇〇ちゃん、おうちに行って来たの？」と言っていました。「おうち」が子どもたちのあこがれになっていたのですね…。将来子どもたちが大きくなって自分の家庭を持つようになった時、この経験が活かされるのだと思うと、短期間であっても、継続した関わりの大切さを改めて感じます。三日里親も初めのころは「家庭体験」が目的でした。今は、子どもたちにとっては自分だけに会いに来てくれる「特別な存在」であり、施設としても、将来に向けて一人でも多く「人生を通じて支援してくれる方」、「兄弟交流の場」、「自立の練習の場」など、多様な目的を視野に入れて、その活動を『自立支援計画』に盛り込み、一人ひとりの子どもたちに必要な支援を、施設と協働で担っていただいています。毎回、子どもたちが貴重な経験をさせていただき、心より感謝しております。

（短期里親：三日里親、週末里親、ふるさと里親などの総称）



小学生の姉弟、一緒にベッドで並んで寝て、ソファでふたり寄り添いながらテレビを観る…何気ない日常のひとつですが、施設の男女別ユニットで暮らすふたりには経験できないこと。月一回ですが我が家での貴重な時間です。



里親になって10年が経ち、今我が家に来ているのは小5の女の子と中1の男の子の兄弟です。とっても仲良し、なんでも同じでないと大変です。

我が家は畳にテーブルの生活で、グループホームでは椅子とテーブルの生活です。初めて食事をしたときはおひざができて足が痛くなって困りました。いまでも練習中です。



ホームとの生活の違いを意識させながらいろいろなことを学んで欲しいと思っています。



8歳の女の子の三日里親をしています。お互いに慣れるのに時間が掛かりました。5年経った今でも家にお泊りはできませんが、それでもいいと思っています。おじちゃんとおばちゃんは焦らず待っています。



施設で暮らす子ども達にとって、帰る家があるのと無いとでは大きな違いです。特に盆暮れの休みの間、自分の選択で施設に残るか里親宅に行くか選ぶ事のできる三日里親の存在は大切だと思います。



たとえ3日間でも、3日間の責任があり、子ども一人一人個性もあります。最初はお客扱いで、家にいる間は楽しい思い出を作ってもらおうと私なりに努力しました。最初に来たT君は神経質で足に障害もあり、夜中に起こされ寝不足になったりもしましたが、今でもいい関係が続き、私たちに頼りにしてくれています。この仕事に従事し、色々な方との出逢いがありました。すべてに感謝しながら今日があります。興味のある方、ぜひ最初の一步を踏み出してみてください！



考えあぐねた1年半。

初めての里子で彼は中学に上がる直前。問題の多い子だとは分かっていましたが想像以上でした。

一般家庭では難しい子も少なくないと知りました。

ただ、私たちの気持ちだけは伝わっていて欲しい。



帰るときはいつも不機嫌なYくん。「二度と家に行かない」って戻っていった姿は悲しかったけれど、次のお迎えはニコニコで飛んできた。ああ、あの言葉で一番辛かったのはYくん自身だったんだね。一緒に、家に帰ろうね。



三日里親として小学生の女の子の里親となりました。月1回の交流でどう関わろうかと考え、私は2人だけのアルバムを作っています。里子にカメラを持たせ自由に写真を撮ってもらい、あれこれ思い出しながらアルバムを作ります。私の立場は「たまに会う親戚のおばちゃん」程度ですが、里子が将来何かの時に思い出してくれたら幸せです。



迎えに行くと、毎回口をぽかんと開け笑顔ひとつ見せません。けれどお迎えをとっても楽しみに待っていたそうです。そんな子どもも今は我が家の子。よく笑う子どもに育ちました。感情をうまく表現できない子どもがいるのだと里親になりたての頃学びました。



小学校の授業参観に行くと、教室の中からチラッと私の顔を見ては知らんぷり。施設の職員さんが廊下を通ると「ああ、〇〇（職員さんのニックネーム）」とにこやかに手を振る。なにこの違いは？でも、「おばさん来てくれて嬉しかった」と後で職員さんからお聞きすると、にんまりしてしまう私です。



お迎えに行って、お昼を食べに家の近くのハンバーガー屋さんへ寄った時のこと。食べている最中に「今日はもう帰る」と言い出して困りました。なんとか一泊はしてもらったのですが、翌日早々に送り届けました。帰りがかった理由が、ポケモン図鑑をもらったこと。それを施設の子どもたちに見せたかったそうで…。「ポケモンに負けたね。これからはハンバーガーを食べるときは最後にしよう！」と夫婦で苦笑いして決めました。



今年の夏も、我が家でK君の誕生日をお祝いしました。10本のろうそくを立てたケーキを囲み、元気に成長したことを喜び合いました。笑顔いっぱいでお機嫌、甘えん坊のK君ですが、時には怒ったりイライラしたりすることも。でもそれがK君。毎日会えない分、その時の対応を大切に考えながら、見守っていきたい。来年は、もう1本ろうそくを増やしてお祝いをしようね！もしかして、おばちゃんより大きくなっているかも。とても楽しみです。



わが家の里子との関わりは2歳～16歳の14年間ですが、途中、兄弟統合という目的で、小学生高学年で施設変更という大きな変化がありました。彼にとっては地域と職員・友達の環境の分断で、精神的には大変だったのではないかと思います。でもその中で変わらなかったのが私たち里親家族との関係でした。細く長く彼だけを見守る存在。小さな積み重ねですが、それが三日里親の意義だと思っています。

最初は、電車で来る時の切符の買い方を教えてもらいました。駅に着いてから公衆電話を掛けて、里親さんに連絡して駅まで迎えに来てもらいました。そのうち1人で来るできるようになりました。（小3）

小さい子が妹みたいでかわいい。またお泊まりしたいです。（小6）

年末の大掃除はあまり好きではないけど、いろいろ教えてもらうのが嬉しい。（中1）

お手伝いが楽しいです！（小5）



～児童養護施設職員からのメッセージ～

- ・「ちょっと別行動をしましたが…」など、些細なことでも様子を聞かせて欲しいです。
- ・買い物や手伝いなど、家庭生活の体験はとてもありがたいです。
- ・大人と一緒にごはんを作り、みんなで食卓を囲む。それだけでも子どもたちには貴重な経験になります。施設職員と里親さんとで情報を共有し、一緒に育てていきたいです。
- ・一般の家庭経験がなかった子どもに家庭の雰囲気を体験させてくれる機会は、将来、子どもが親になることを考えると、とても大切な経験をさせてもらっていると感じます。将来の自分の家庭のイメージを考えることにつながってくれれば嬉しいです。

三日里親制度は、児童養護施設で暮らす子どもたちにとってとても大切な制度です。

神奈川県内の児童養護施設を紹介します！子どもたちの明るく元気な声が聞こえてきそうです。近くへお出かけの際はぜひ訪問してください。きっと暖かく迎えてくださると思います。

児童養護

施設紹介

2施設紹介します！

社会福祉法人 箱根恵明学園

児童養護施設

箱根恵明学園

(施設長：田崎 吾郎)

住所 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷 439-2

現在の園舎

ホームページ <http://www14.plala.or.jp/keimei/index.html>

電話番号 0460-82-2861 **児童定員** 70 名

職員配置 施設長、書記、指導員、保育士、栄養士、嘱託医、
家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、その他



【里親支援専門相談員】これまで里親担当者が担ってきた里親事業を引き継ぎ、平成 30 年度より配置しました。社会的養護の必要な児童を養育・支援する里親の方々と、子どもたちの健康と幸せな育ちに貢献したいと思えます。

沿革 昭和 21 年東京都世田谷区にて、戦災孤児等を保護する乳児院として発足しました。

昭和 24 年「恵明学園箱根幼児部」として認可、開園しました。乳幼児期及び幼児初期の最も大切な養育期に混乱のあった子どもたちのあらゆる面での遅れを取り戻す為の幼児保育も行いましたが、これのみではとてもおぼつかないことから昭和 26 年に学校法人恵明学園小学校(私学)を併設し、養護と教育の一貫した体系を樹立しました。昭和 42 年社会福祉法人箱根恵明学園としての認可を受けました。平成 31 年春に宮ノ下へ移転(旧町立温泉小学校建物物を改築工事中)現在、中舎制の施設ですが、新園舎ではユニット制、定員 45 名に変わります。



併設小学校では、子どもの学力や特性に配慮した個別指導により、学習への興味を高める教育をしています。学校教育と施設の生活指導とを密接に連携を取りながら養育を行っています。併設小学校も共に移転します。

栄養士の立てた献立をもとに、寮ごとに保育士職員が交代で3食とも完全調理をしています。子どもたちが日常的に調理場面を見てお手伝いをするなど、食を身近に感じる家庭的な食生活の提供を目指しています。

基本方針

1. 正しい心と丈夫な身体を持つ児童を育成する。
2. 学習に対する興味と意欲を持たせる。
3. 善悪の判断ができる心を育てる。
4. 実行力のある子どもを育てる。
5. 言葉遣いに気を配り、正しい話し言葉を身に付ける。

地域交流学園行事にボランティアさん、
卒園生もたくさん遊びに来て参加します★



新園舎

【住 所】 神奈川県足柄下郡湯河原町鍛冶屋 605-1 【電話番号】 0465-62-8501
【児童定員】 本園 45 名 (ケア体制: 小舎制 6~7 名) ぐるーぷほーむ指路・蒼生 各 6 名

【職員構成】 施設長 書記 スーパーバイザー 家庭支援専門相談員 臨床心理士 栄養士 調理員 里親支援専門相談員 職業指導員 直接ケア職員

【沿革】 創始者 平岡貞が、戦後の荒廃に青少年を救済するため、キリスト教の精神により湯河原町城堀の土地を提供し、城山学園設立に尽力しました。昭和 26 年 6 月「財団法人城山ホーム」設立。昭和 31 年「財団法人城山学園」設立。昭和 42 年 7 月「社会福祉法人城山学園」認可。昭和 46 年 5 月城堀園舎新築。平成 16 年 10 月地域小規模児童養護施設「ぐるーぷほーむ指路」、18 年 3 月「ぐるーぷほーむ蒼生」開設。平成 24 年 12 月相模湾や幕山を望む風光明媚なここ鍛冶屋の地に新築移転しました。周囲をみかん畑と自然に恵まれた地で、一人ひとりを丁寧に受け止め、子どもに寄り添い育てること。一緒に育ちあう心を大切に、日々、子どもたちへの細やかな関わりを心がけ、今日に至っています。



【理念】 キリスト教精神と養育の知見に基づき、子どもの存在そのものを受け止め、子どもと向き合い、全人的理解を持ち、生活を共にしながら、『自己を大切にできる人』『他者を大切にできる人』として育むこと。

【モットー】 『  かるく  なおに  こたれず 』

【自慢・アピール】

★ 新園舎移転に伴い、学童部 7 部屋を虹の 7 色になぞらえ、当て字をし、願いをこめました。
「にじ」:これからどんな色になっていくのかな? 「萌木 (もえぎ)」: 萌えいずる木のごとく若々しく伸びやかに育って! 「青藍 (せいらん)」: 「藍より青し」器の大きな人間になるように! 「俺家 (おれんじ)」: いつかは「ここがおれん家!」と誇れる育ちを。「清麗 (すみれ)」: 清々しく麗しく、そして、しとやかに「亜咲 (あさぎ)」: 今は蕾。これから大輪の花を咲かせます。「淡頬 (たんぽぽ)」: 可愛く確かな成長を! 「明音 (あかね)」: 明るい音を奏でるように育って! …いかがですか? 素敵だと思いませんか?

★ 厨房から出されたレシピと食材で調理する「食材夕食」と、献立から買い物、片付けまで、職員と子ども達と一緒に料理をする「日曜夕食」を、月 2 回ずつ実施しています。「みんなで作ると美味しいね」とご満悦。前向きな気持ちや周りへの感謝の気持ちが育っています。将来の自立への一歩かな?

★ 年に一度、SFB (城山ふれあいバザー) と称し、広報活動と地域の方々への日頃の感謝を兼ねて、模擬店・バザー・ゲームを催し楽しい時間を過ごします。また、卒園生と元職員を迎え在園児と職員も一緒に、里帰り交流である城山会を開催します。BBQ やゲームをしながら、近況報告や情報交換に話の花が咲きます。卒業間近な年長児には、社会人としての生活の知恵を教えてもらういい機会になっているようです。クリスマス会では、家族やお世話になっている皆様をご招待し、クリスマス礼拝と祝会を行ないます。



年に 2 回、部屋ごとの外出、外泊を行なっています。家族旅行のような雰囲気味わってもらえればと思っています。行き先は遊園地やキャンプなどです。また、それぞれの子どもの誕生日には担当職員が、その子のためにリクエストされたケーキを作り、部屋のみんなで誕生日会を催します。



背景のみかんたちは、学園のマスコット「かんキッズ」です。



西湘なでしこ会

小田原市・南足柄市・湯河原町・真鶴町・松田町・中井町・大井町・箱根町・開成町・山北町

今年度4月より、西湘なでしこ会の事務局が、小田原児童相談所からゆりかご園へと業務が引き継がれました。4月総会時は里親家庭10組のスタートでしたが、6月より1組の入会があり、会員数の減少に歯止めがかかりほっとしています。

前期の活動は、5月27日の「子育て支援フェスティバル」へ「里親ってなあに、かざぐるまであそぼう」をテーマに常連参加。これは、小田原市や小田原短期大学を中心に子育て支援にかかわる50近い団体が、遊びや情報提供をととして子育ての環を地域に広めるイベントですが、会場全体で5,500人の来場者に、会のブースも600本用意したかざぐるまは午後早々に制作終了となってしまいました。小田原児童相談所の職員、里親支援専門相談員の方々とともに、ひっきりなしに来場される親子へかざぐるまの作り方を手ほどきする合間には、里親制度のパネルを見ていただいたり、里親についての説明をしました。小さな種まきですが里親や制度への理解者を増やす第一歩と捉えています。里子たちもかざぐるまの製作指導要員となって頼もしい限りでした。

8月は、パン教室。パン作りの得意な里親が講師となり、午前中はピザを焼いて昼食に食べ、午後はパンを焼いて持ち帰りました。お昼ごはん用の野菜たっぷりスープもみんなで手分けして作りました。参加者は、里親子だけでなく、児童養護施設の子どもたちや、児童相談所職員、里親支援専門相談員など、多彩な顔ぶれで夏休み的一天を楽しみました。



9月1日～2日は、一泊研修を行いました。今年度は、「こんなときどうする？子どもへの対応」と題して講師をお招きして研修会を行いました。講演のあとはグループに分かれてフリートークをし、児童相談所、里親支援相談員の方々と意見交換ができたことは大変貴重だと感じました。その後の懇親会ではみんなで楽しいひとときを過ごしました。

平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町

あおぞら里親会

あおぞら里親会の組織が大きく変わり、世代交代で半年経過しました。新会長、新副会長、会計の3役で、基本のところを話し合っ計画が進められることに、今までにない意気込みや、進み方に注目しているところです。半年を経過し、会の歩みと今後の予定等をお知らせします。

* 総会と理事会を経て

4月14日(土)は、年に一度の総会。保育の場を設けていただいて、大人たちは報告と計画、決算と予算にいろいろと意見と意見を語りました。準備が上手く進んでいたのも、比較的スムーズ。

さすが若手の里親の人たち。世代交代もオッケー！ 来年度を見越した計画まで話が弾んでいきました。サロンの開催、宿泊研修等の日程調整など。その後の理事会（6月9日）では、7月のBBQ実施計画と9月以降の打ち合わせも行いました。直前の7月12日（木）には第3回の理事会で具体的にBBQの役割分担を決めました。その他の主な行事とレクリエーションの結果は、以下の通りです。

○あおぞらサロン 6月19日（二宮ラディアン）、9月11日（秦野保健福祉センター）

○第39回二宮町社会福祉大会 9月29日 ミニバザー、里親制度の紹介

○夏のレクリエーション 7月21日（土） 10時半から 15時頃まで 海の家「さゆり」でBBQ。

大人：20人（里親14家庭）＋9人（児童相談所：6 里親支援専門相談員：3）、子ども：12人



猛暑の続いた7月から8月。当日は海遊びには絶好のお天気でした。砂浜はあっちっち。波はザンブリコ。スイカ割りで一発勝負。ミニプールも置いて、波がこわいちびちゃんには、楽しいコーナーもありました。お腹のすいたお昼には、おいしそうにホタテ、ウインナー、お肉が焼けました。一週間後なら、台風の大波が寄せてきて、実現出来なかったでしょう。ラッキー！

* これからの予定

11月3日 心泉学園 ハートフェスタ 里親コーナーでゲームとポップコーン販売など。

12月22日 クリスマス会（二宮町民センター）

1月～2月予定 宿泊研修（熱海方面）



湘南・大和里親会

《第5回定期総会：4月21日》



藤沢市・大和市・茅ヶ崎市・寒川町

私たちの里親会も設立5年目。毎年4月に開催される総会も5回目になりました。総会では昨年度の活動実績と決算内容が報告・承認され、さらに今年度の活動計画と予算も承認されて新たな年度がスタートしました。

総会では新たな理事・監事の役員が選任され、多くの理事が新任となって、理事もフレッシュ(^_^) になりました。また、永年にわたり里子の養育に尽力された4組の里親が会長表彰を受けられました。

《地区別里親サロン》

近くに住む里親が相互に支援し合うために、第一四半期では各地区の里親同士がお互いをもっと知ろうと、地区別の里親サロンを開催しました。



藤沢地区サロン：6月14日

聖園ベビーホームの場所をお借りして穏やかな雰囲気の中でのサロン。9名の方に参加いただき、前半は聖園ベビーホームの林さんのミニ研修（子どもの病気やケガについて）、後半はゆっくりお話しすることができ、明日からまた頑張ろうと思えた帰り道でした。（大淵）



茅ヶ崎・寒川地区サロン：6月28日



里親が8名、里子とそのお子さまも参加してくださいました。里親の思いや里子の気持ちをお聞きすることができて、とても穏やかな雰囲気でのサロンでした。残念ながら今回参加できなかった方も、次回お会いできるのを楽しみにしています。（鈴木）

大和地区サロン：7月1日

昼食会、新入会里親歓迎会、近況報告などをひっくるめたサロンを開催しました。都合がつかなくて参加できない里親が、大人16名、子ども5名の参加で、総勢しました。お昼ごはんにみんなで焼肉を食べました。いっぱい食べて、いっぱいおしゃべり焼肉をお腹いっぱい食べた後に、くじ引き変な顔になったり、笑顔いっぱいのひと時



の方もいらっしゃいました21名の賑やかなサロンになりながら楽しい時間を過ごしました。子どもたちもをしたり、変装道具を使ってでした。（大川）

《夏季レクレーションBBQ at 弁慶果樹園》



台風12号接近のために毎年恒例の夏のバーベキューが中止になってしまいました。残念(>_<)。楽しみにしていたスイカ割りも虫捕りのチャンスもお肉と一緒に消えてしまいました。9月に再チャレンジの予定です。でも、もう虫はいないかな。

厚木市・綾瀬市・海老名市・座間市・相川町・清川村

県央里親会（すこやかのかい）

3月8日 ブロック会

悪天候の中、20名ほどの里親子が集まってくれました。一時保護の子どもを連れての方が多く、わいわいと、にぎやかなひとときでした。

4月2日 お花見（ぼうさいの丘公園）

参加者32名の盛況。元里親や、そのお孫さんまで、幅広い年齢層が集まり、お花見を楽しみつつ歓談しました。子どもたちはクジャクを見たりして、はしゃいでいました。

4月22日 定期総会

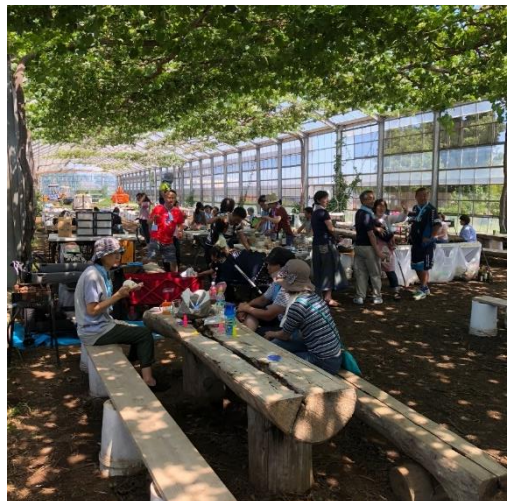
里親41組中、30組出席という出席率の高さでした。6名の里親賛助会員の方も参加してくださいました。

6月23日 グッチサロン（里親センターひこばえ）

平日の参加が難しい里親のための、土曜日開催のサロン。お互いに近況報告をしたり悩みを共有したりする貴重な機会となりました。

7月1日 夏季レクリエーション（弁慶果樹園）

猛暑でしたが、テントの中は爽やかな風が通って涼しく、子どもたちは元気に走り回り、大人たちものんびり一杯やりつつおしゃべりを楽しみました。もちろん、バーベキューやスイカもモリモリ。大抽選会など、レクリエーション也大盛り上がりでした。スタッフの皆さんに感謝！



鎌倉三浦地域里親会（鎌三わか芽会）

鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町

～5月13日 はじめましてサロン～



今回、鎌倉三浦地区で新たに6組の里親が誕生しました。この日は新しく里親になられた方をゲストに、葉山町福祉文化会館で交流会を行いました。広い畳の部屋で、ボールを使って遊ぶ子どもたちの周りで、New 里親の方たちとの会話もはずんだ1日でした。



～6月28日 ランチサロン～



この日は里親になったばかりの方を中心におしゃれな葉山のレストラン cafe・VALENCIAでランチサロンを行いました。ゆったりとした時間の中で、ベテランの里親やまだ小さな子の子育てまっただ中の里親からのお話に、驚いたり感動したりとの認定を受けたばかりの里親の方たち。とても有意義で、美味しいランチに大満足のひとときでした。



☆鎌倉で行われた 里親家族の写真展☆



7月6日 鎌倉のカフェ Copen Local Base で里親家族の写真展が開催されました。普段の生活そのものの自然体の写真がさりげなく飾られた会場で少しでも多くの方に里親のことを知ってもらおうと、若い主催者の方が初めて立ち上げたイベントにたくさんの方が関心を持ち足を運んでくださいました。この鎌三わか芽会会員もトークショーに参加させていただきました。里親のこと、地域で子どもを育てるということをも身近に感じて知っていただく機会がさらに広まることを願います。

おめでとうございます!

～平成 29 年度～

全国里親会 会長表彰

関東甲信越静里親協議会 さいたま市大会会長表彰

神奈川県里親会会長表彰

湘南・大和里親会

県央里親会

湘南・大和里親会

湘南・大和里親会

湘南・大和里親会

ほか 1 名

高橋真、聖子夫妻

直井友之、礼子夫妻

久保田均、和賀代夫妻

神鳥博道、キク子夫妻

〇夫妻

お知らせ

10月14日(日)

神奈川県里親大会 綾瀬市オーエンス文化会館

11月17・18日(土日)

第63回全国里親大会金沢大会

1月26日(土)

神奈川県里親会 里親研修会

このほかに理事会、評議員会が開催されます。また、2020年には関東甲信越静里親協議会の担当会となります。実行委員会を立ち上げ、準備を進めていきますのでご協力よろしくお願いいたします。



「緑のジャングル」 Tくん (9歳)



幼稚園の親子遠足。

「大好きなぶどうをいっぱいもらってよ。たまごとハンバーグもはいているの。」

編集後記 今号より編集委員が新しくなりました。あおぞら里親会の中村、湘南・大和里親会の坂田谷、県央里親会の國次、鎌倉三浦地区里親会の長主、西湘なでしこ会の西本です。今回は、自治体によって呼び方は違いますが、三日里親（短期里親）の特集です。

児童養護施設と地区だよりは担当者が個性豊かに紹介しています。